

## 令和6年 火災・救急概況（速報）

～令和6年1月1日から令和6年12月31日まで～

### ① 火災件数は減少。しかし死者(放火自殺を除く)は前年より10人増え、24人発生

- ・ 全火災件数は678件で、前年と比べて55件減少しましたが、建物火災は457件で、前年と比べて19件増加しました。
- ・ 火災による死者（放火自殺を除く）は24人で、過去10年間では平成28年と並び最多となりました。
- ・ 全火災における電気火災（※）の件数は198件で、依然として高水準で推移しています。

### ② 3年連続で、救急出場件数、搬送人員ともに過去最多を記録

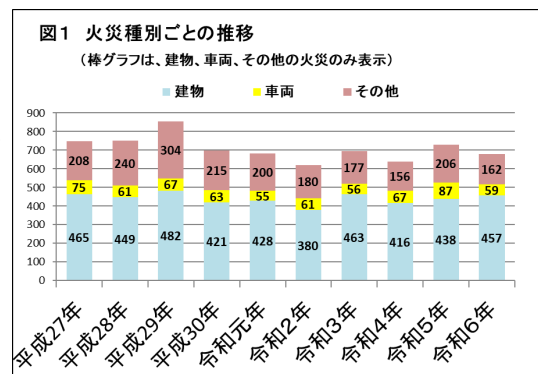
- ・ 救急出場件数は256,481件で、前年と比べて1,845件（0.7%）増加し、過去最多となりました。
- ・ 搬送人員は207,472人で、前年と比べて2,501人（1.2%）増加し、過去最多となりました。搬送人員の割合を年代別にみると高齢者が58.5%、傷病程度別にみると中等症以上が54.7%となりました。

※電気火災とは、電気をエネルギーとする機器や用品、設備などが発火源となった火災です。

## 1 火災の概況（詳細は、別添資料1参照）

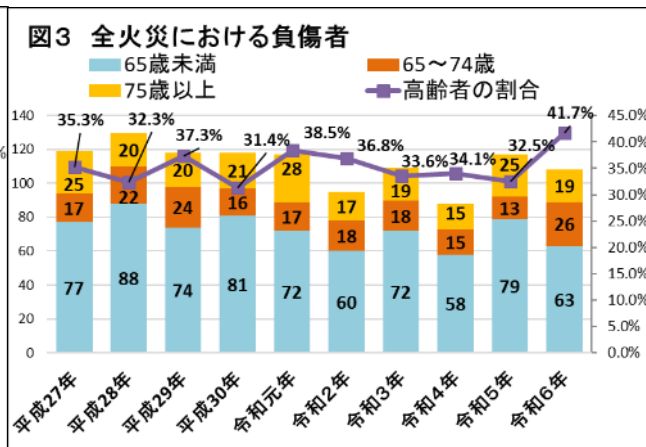
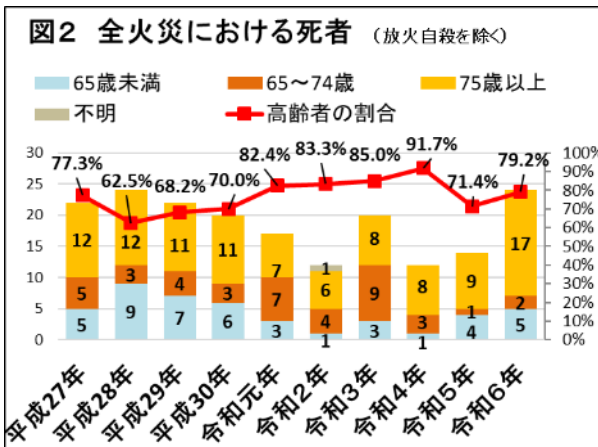
### (1) 火災件数【図1】

- ・ 全火災件数は678件で、前年と比べて55件減少し、火災種別ごとにみると、建物火災は457件（前年比19件増）、車両火災は59件（前年比28件減）、その他の火災は162件（前年比44件減）となりました。
- ・ 建物火災のうち住宅火災件数は290件で、前年より6件増加しました。



### (2) 火災による死者及び負傷者【図2】【図3】

- ・ 放火自殺を除く全火災の死者は24人（前年比10人増）で、過去10年間では平成28年に並び最多となり、全員が住宅火災でお亡くなりになりました。そのうち19人（79.2%）が65歳以上の高齢者の方でした。
- ・ 火災による負傷者は108人（前年比9人減）で、80人（74.1%）が住宅火災で負傷しました。負傷者のうち45人（41.7%）が65歳以上の高齢者の方でした。



裏面あり

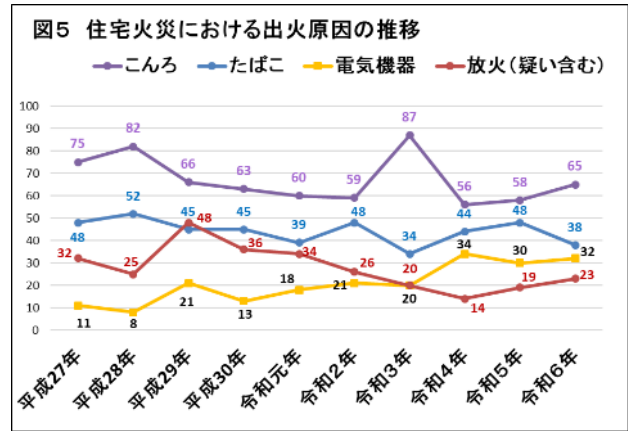
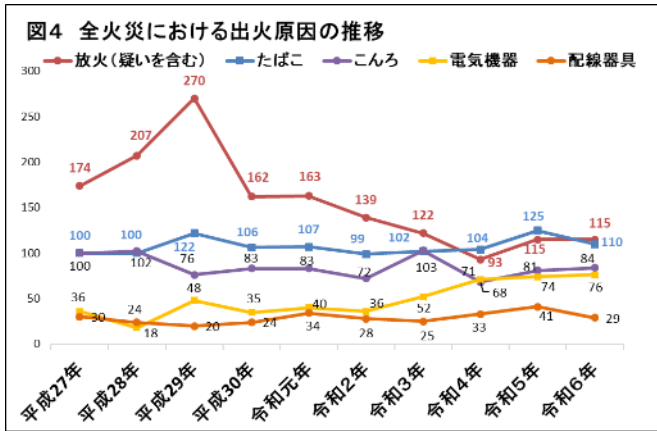


GREEN × EXPO 2027  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

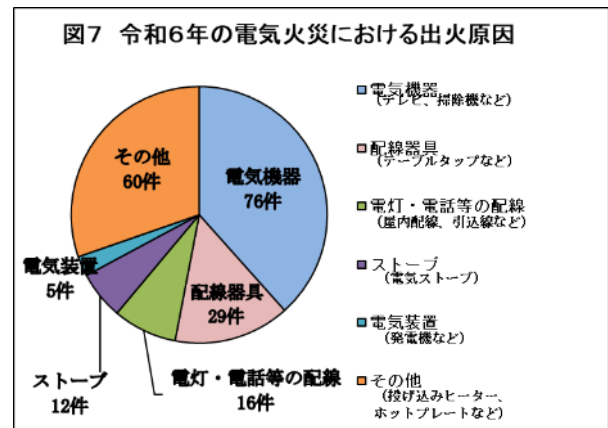
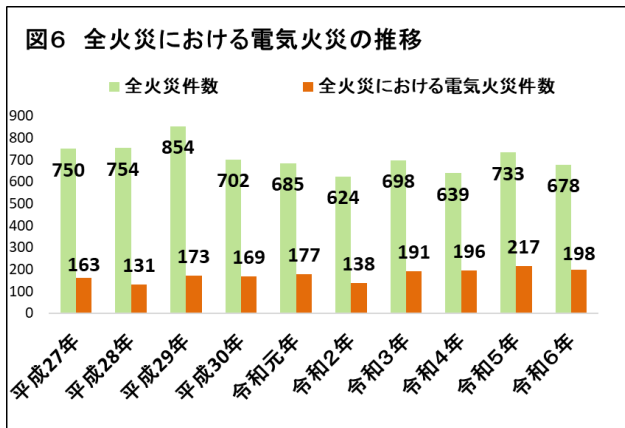
### (3) 主な出火原因【図4】【図5】

- ・ 全火災の出火原因第1位は、「放火（疑い含む）」115件（前年と同数）で、次いで「たばこ」110件（前年比15件減）、「こんろ」84件（前年比3件増）の順となりました。
- ・ 住宅火災の出火原因第1位は、「こんろ」65件（前年比7件増）で、次いで「たばこ」38件（前年比10件減）、「電気機器」32件（前年比2件増）の順となりました。



### (4) 電気火災【図6】【図7】

- ・ 全火災のうち198件（29.2%）が「電気火災」となりました。
- ・ 出火原因別では、テレビや掃除機などを発火源とする電気機器が76件で、テーブルタップなどを発火源とする配線器具が29件となりました。
- ・ リチウムイオン蓄電池に起因した火災は40件で、そのうち住宅火災で20件発生しており、近年、増加傾向となっています。



### 火災から「命」を守るために

火災から命を守るためには、日頃からの火災予防はもとより、初期消火と迅速で安全な避難が重要です！熱や煙を感知して、火災の発生をいち早く知らせしてくれる“住宅用火災警報器”を設置し、定期的に点検・交換をしましょう！

避難経路の確保や火災の拡大を防ぐためにも、日頃から整理整頓を心がけましょう！



横浜市消防局 マスコットキャラクター「ハマくん」

避難のポイント ①危険を感じたら直ちに避難を開始 ②煙を吸わない ③避難したら戻らない

### 電気火災にご注意ください！

正しく使用すればとても便利な電気製品も、使用方法を誤ると、火災を発生させてしまうおそれがあります。実際の火災事例をみて、誤った方法で使用しないよう注意しましょう！

事例① 長時間の充電（過充電）により出火 [よこはま防災 e-パークで防火対策を学びましょう！アクセスはこちら▶](#)

- 事例② テーブルタップの許容量を超えて使用したことによる出火
- 事例③ 落下させたことによりバッテリー内部がショートし出火

使用前に、取扱説明書等を確認し正しく使用しましょう！

次項あり



**GREEN×EXPO 2027**  
YOKOHAMA JAPAN

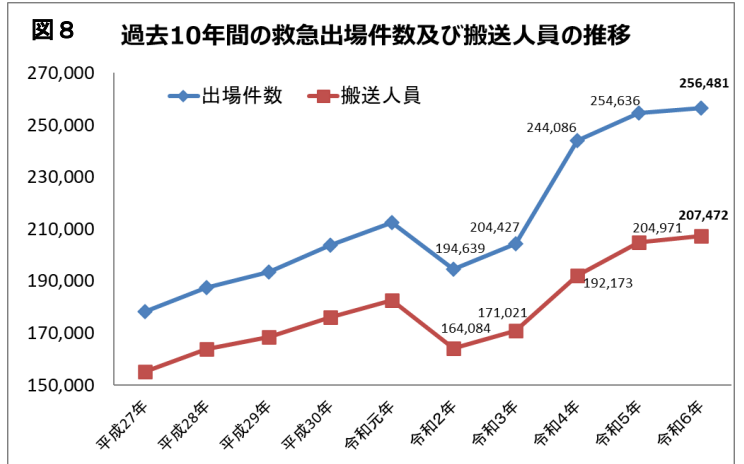
2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



## 2 救急の概況（詳細は、別添資料2参照）

### (1) 救急出場件数及び搬送人員【図8】

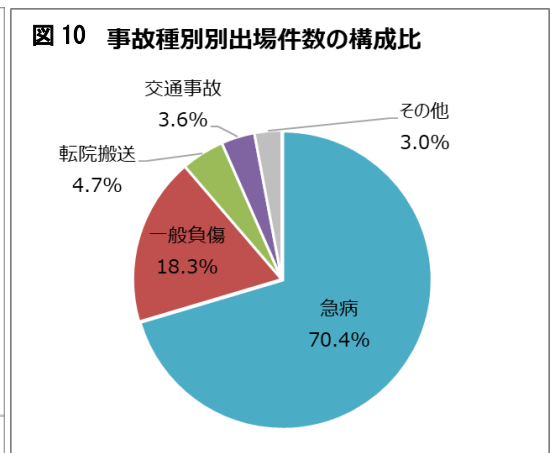
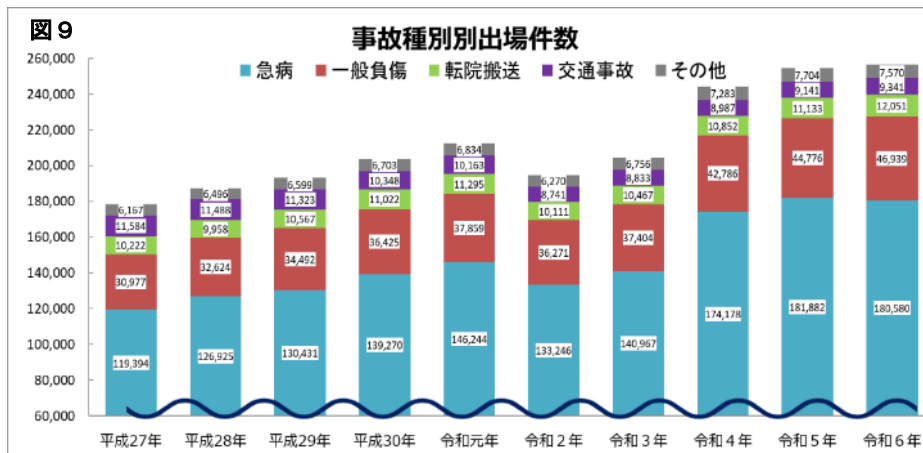
- 救急出場件数は256,481件（前年比1,845件増）で、過去最多となりました。
- 搬送人員は207,472人（同2,501人増）で、過去最多となりました。
- 1日あたりの平均救急出場件数は701件（同3件増）となりました。
- 2分3秒に1回救急車が出場していることとなります（前年は2分4秒に1回）。
- 市民の15人に1人が救急車を利用されたこととなります。



### (2) 事故種別別出場件数【図9】【図10】

- 事故種別ごとの救急出場件数は、「急病」180,580件（前年比1,302件減）、「一般負傷※」46,939件（同2,163件増）、「転院搬送」12,051件（同918件増）、「交通事故」9,341件（同200件増）の順となり、全救急出場件数のうち、急病が70.4%、一般負傷が18.3%となりました。

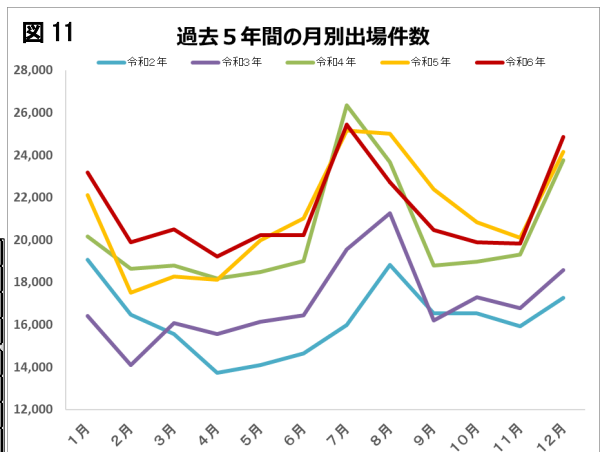
※一般負傷とは、「労働災害や運動競技等に分類されない不慮の事故」をいい、転倒・転落、やけど等が該当します。



### (3) 月別出場件数【図11】

- 1か月あたりの平均救急出場件数は21,373件（前年比153件増）となりました。
- 7月が25,442件（同288件増）、次いで、12月の24,857件（同707件増）、1月の23,192件（同1,084件増）の順となり、熱中症や感染症等の流行時期に救急要請が多くなりました。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
令和6年	23,192件	19,896件	20,510件	19,219件	20,230件	20,226件
令和5年	22,108件	17,519件	18,272件	18,122件	19,969件	21,009件
増減比	4.9%	13.6%	12.2%	6.1%	1.3%	△3.7%
	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和6年	25,442件	22,713件	20,480件	19,883件	19,833件	24,857件
令和5年	25,154件	25,020件	22,389件	20,824件	20,100件	24,150件
増減比	1.1%	△9.2%	△8.5%	△4.5%	△1.3%	2.9%



裏面あり



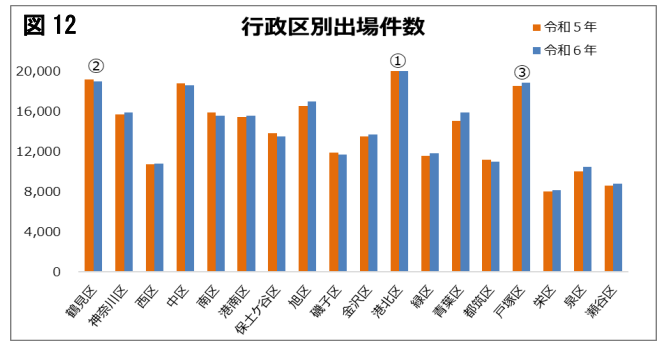
**GREEN×EXPO 2027**  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



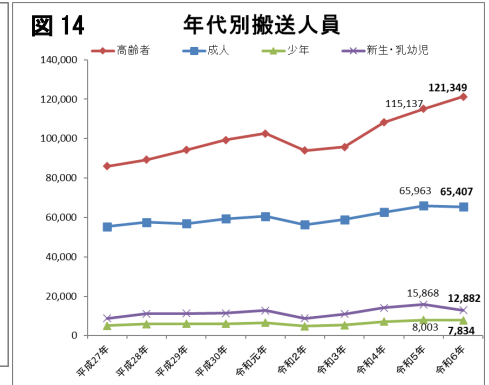
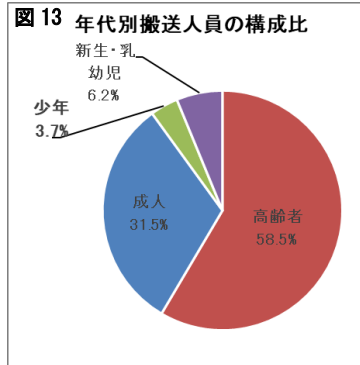
#### (4) 行政区別出場件数【図 12】

- 行政区別の救急出場件数は、港北区 (20,313 件)、鶴見区 (18,987 件)、戸塚区 (18,821 件) の順となりました。
- 前年と比べて、青葉区で 807 件 (5.4%)、泉区で 504 件 (5.0%) 増加し、保土ヶ谷区で 327 件 (2.4%)、南区で 343 件 (2.2%) 減少しました。



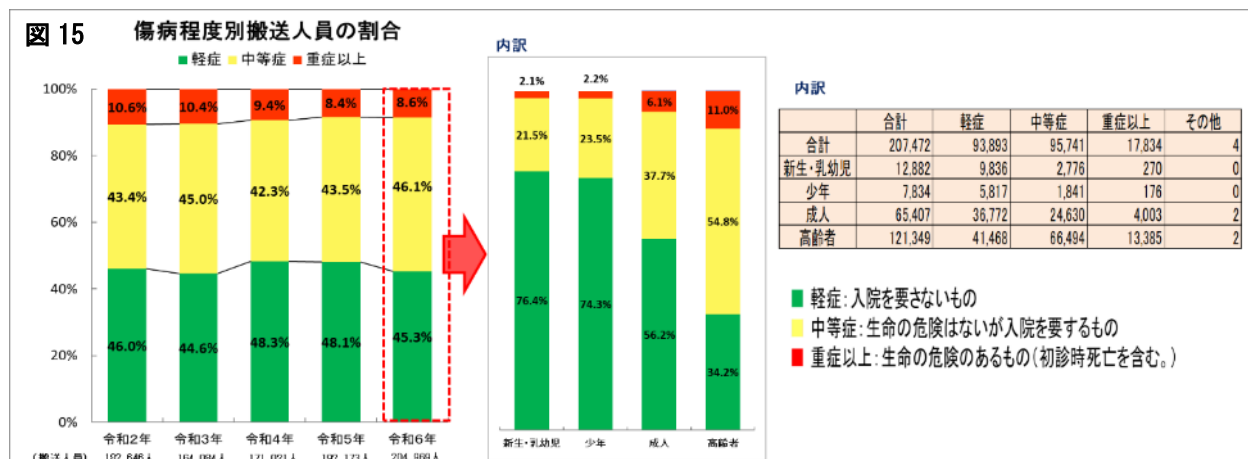
#### (5) 年代別搬送人員【図 13】【図 14】

- 前年と比べて高齢者のみ増加しました。
- 年代別の搬送人員は、65 歳以上の「高齢者」が 121,349 人 (58.5%)、18 歳以上 65 歳未満の「成人」が 65,407 人 (31.5%)、7 歳未満の「新生・乳幼児」が 12,882 人 (6.2%)、7 歳以上 18 歳未満の「少年」が 7,834 人 (3.8%) の順となりました。



#### (6) 傷病程度別搬送人員 (医療機関初診時)【図 15】

傷病程度別の搬送人員は、軽症が 93,893 人 (前年比 4,767 人減)、中等症が 95,741 人 (同 6,565 人増)、重症以上が 17,834 人 (同 704 人増) の順となり、「新生・乳幼児」及び「少年」では 7 割以上が軽症であるのに対して、「高齢者」では 6 割以上が入院を必要とする中等症及び重症以上となりました。



※グラフ等の割合は小数第 2 位を四捨五入しているため、表中の合計が 100.0%にならない場合があります。

### おぼえておきたい 3 つのステップ！！

ステップ 1 元気なうちにしっかり備える

ステップ 2 困ったときはまず相談

ステップ 3 こんな時こそ救急車

急な病気や大きなケガを予防するための取組や救急車の正しい利用方法の理解促進に向け、「あんしん救急」の取組を進めています。

お問合せ先			
(火災に関すること)	消防局予防課長	川島 正裕	Tel 045-334-6601
(救急に関すること)	消防局救急企画課長	谷津 直樹	Tel 045-334-6771





## 火災概況〈速報〉

## 1 火災種別・損害状況

単位：件

年別		令和6年	令和5年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成26年～令和5年) (C)	(A) - (C)
火災種別	全火災	678	733	△55	739	△61
	建物火災	457	438	19	448	9
	住宅火災	290	284	6	290	-
	林野火災	-	-	-	-	-
	車両火災	59	87	△28	67	△8
	船舶火災	-	2	△2	2	△2
	航空機火災	-	-	-	-	-
	その他の火災	162	206	△44	223	△61
損害状況	焼損床面積(m <sup>2</sup> )	6,869	9,227	△2,358	6,659	210
	死者(人)	25	15	10	21	4
	放火自殺者	1	1	-	3	△2
	負傷者(人)	108	117	△9	115	△7
	住宅火災					
	焼損床面積(m <sup>2</sup> )	5,705	4,568	1,137	4,023	1,682
	死者(人)	25	15	10	18	7
	放火自殺者	1	1	-	2	△1
負傷者(人)	80	82	△2	86	△6	

備考 住宅火災の件数は建物火災の内数、住宅火災の損害状況は全火災の損害状況の内数 また、放火自殺者数は死者数の内数  
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 2 主な出火原因

単位：件

年別		令和6年	令和5年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成26年～令和5年) (C)	(A) - (C)
全火災	放火(疑い含む)	115	115	-	175	△60
	たばこ	110	125	△15	108	2
	こんろ	84 (6)	81 (6)	3	87 (8)	△3 (△2)
	電気機器	76 (76)	74 (74)	2 (2)	43 (43)	33 (33)
	配線器具	29 (29)	44 (44)	△15 (△15)	29 (29)	-
	上記以外の出火原因	264 (87)	294 (93)	△30 (△6)	297 (92)	△33 (△5)
	計	678 (198)	733 (217)	△55 (△19)	739 (172)	△61 (26)
住宅火災	こんろ	65 (3)	58 (3)	7	69 (7)	△4 (△4)
	たばこ	38	48	△10	46	△8
	電気機器	32 (32)	30 (30)	2 (2)	19 (19)	13 (13)
	放火(疑い含む)	23	19	4	30	△7
	配線器具	20 (20)	29 (29)	△9 (△9)	19 (19)	1 (1)
	上記以外の出火原因	112 (44)	100 (34)	12 (10)	107 (42)	5 (2)
	計	290 (99)	284 (96)	6 (3)	289 (87)	1 (12)

備考 ( )内は電気に起因する火災で各出火原因の内数  
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 3 行政区別火災発生状況

単位：件

年別		令和6年	令和5年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成26年～令和5年) (C)	(A) - (C)
行政区	鶴見区	48	54	△6	66	△18
	神奈川区	42	43	△1	47	△5
	西区	38	38	-	33	5
	中区	93	88	5	71	22
	南区	41	47	△6	43	△2
	港南区	28	26	2	39	△11
	保土ヶ谷区	34	31	3	36	△2
	旭区	34	46	△12	46	△12
	磯子区	22	22	-	28	△6
	金沢区	40	38	2	35	5
	港北区	74	75	△1	64	10
	緑区	16	26	△10	32	△16
	青葉区	30	38	△8	41	△11
	都筑区	18	34	△16	36	△18
	戸塚区	45	49	△4	49	△4
	栄区	20	18	2	17	3
	泉区	27	30	△3	28	△1
	瀬谷区	28	30	△2	28	-
合計		678	733	△55	739	△61

備考 過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 救 急 概 況 &lt; 速 報 &gt;

単位：件

区 分\年 別	令和 6 年		令和 5 年		増△減	増減比
	件数	構成比	件数	構成比		
出場件数	256,481		254,636		1,845	0.7%
1日当たりの出場件数	701		698		3	
出場率（何分何秒に1回）	2分3秒に1回		2分4秒に1回		—	
市民の救急車利用状況	15人に1人が利用		15人に1人が利用		—	

※令和6年の人口については、令和6年12月1日推計値（政策局総務部統計情報課資料）による。

## 事故種別別出場件数

単位：件

事故種別	令和 6 年	構成比	令和 5 年	構成比	増△減	増減比
急 病	180,580	70.4%	181,882	71.4%	△ 1,302	△0.7%
一 般 負 傷	46,939	18.3%	44,776	17.6%	2,163	4.8%
転院搬送	12,051	4.7%	11,133	4.4%	918	8.2%
交通事故	9,341	3.6%	9,141	3.6%	200	2.2%
そ の 他	7,570	3.0%	7,704	3.0%	△ 134	△1.7%
合計	256,481	100.0%	254,636	100.0%	1,845	0.7%

※その他とは、加害や自損行為などを含む。

## 傷病程度別搬送人員

単位：人

傷病程度	令和 6 年	構成比	令和 5 年	構成比	増△減	増減比
軽 症	93,893	45.3%	98,660	48.1%	△ 4,767	△4.8%
中 等 症	95,741	46.1%	89,176	43.5%	6,565	7.4%
重 症 以 上	17,834	8.6%	17,130	8.4%	704	4.1%
そ の 他	4	0.0%	5	0.0%	△ 1	△20.0%
合計	207,472	100.0%	204,971	100.0%	2,501	1.2%

※その他とは、医療機関に搬送はしたが、受診拒否など傷病程度の示しが無いもの。

## 年代別搬送人員

単位：人

傷病者年代区分	令和 6 年	構成比	令和 5 年	構成比	増△減	増減比
新生児・乳幼児（0歳以上7歳未満）	12,882	6.2%	15,868	7.7%	△ 2,986	△18.8%
少年（7歳以上18歳未満）	7,834	3.8%	8,003	3.9%	△ 169	△2.1%
成人（18歳以上65歳未満）	65,407	31.5%	65,963	32.2%	△ 556	△0.8%
高齢者（65歳以上）	121,349	58.5%	115,137	56.2%	6,212	5.4%
合計	207,472	100.0%	204,971	100.0%	2,501	1.2%

## 行政区別救急出場件数

単位：件

行政区	令和 6 年	令和 5 年	増減比	行政区	令和 6 年	令和 5 年	増減比
鶴見	18,987	19,147	△0.8%	港北	20,313	20,267	0.2%
神奈川	15,874	15,679	1.2%	緑	11,840	11,542	2.6%
西	10,807	10,749	0.5%	青葉	15,859	15,052	5.4%
中	18,602	18,760	△0.8%	都筑	10,987	11,176	△1.7%
南	15,534	15,877	△2.2%	戸塚	18,821	18,554	1.4%
港南	15,542	15,465	0.5%	栄	8,127	8,019	1.3%
保土ヶ谷	13,477	13,804	△2.4%	泉	10,495	9,991	5.0%
旭	16,995	16,503	3.0%	瀬谷	8,817	8,619	2.3%
磯子	11,675	11,869	△1.6%	市外	45	47	△4.3%
金沢	13,684	13,516	1.2%				

※令和6年中の出場件数の内訳及び搬送人員の数値は、速報値であり、確定値ではありません。

※構成比率は少数第2位を四捨五入しているため、表中の合計が100.0%にならない場合があります。